



～えっ？ 真夏にRSウイルス？～

RSウイルス(RSV)感染症の流行時期について

RSV感染症は秋から冬に流行する呼吸器の感染症ですが、最近では流行時期が早くなり夏にも流行がみられます。今治市でも今年度は7月末から現在まで保育所を中心にRSV感染症が大流行しています。RSV感染症は一年を通して流行する病気と考えなければいけません。

初感染のRSV感染症の典型的な経過について

潜伏期間は4～5日。最初は発熱、鼻汁の上気道症状から始まり、3日目頃から鼻水、咳が多くなってきます。下熱しはじめる4日目頃からゼイゼイという、呼吸が速くなるといった呼吸困難の症状が現れてきます。咳や喘鳴はおよそ10日間で消失します。

2歳までに100%感染する!!

1歳までに50%以上が、2歳までにほぼ100%が感染をします。2歳未満のRSV感染症の約1/3が細気管支炎となり、その中の1/10が入院に至ります。また一度かかっても免疫がでにくく再感染を起こすことがあります。一般に再感染では軽症で経過する場合があります。

RSV感染症の登園の目安

厚生省のガイドラインでは登園の目安は“重篤な呼吸器症状が消失し全身状態がよいこと”となっています。具体的には、熱が下がり夜間の咳込みや呼吸困難がほぼ消失すれば登園可としてよいと考えます。

看護師からのアドバイス

～RSV感染症流行時に保育所で感染拡大を防ぐためのポイント～

RSV感染症は「飛沫感染」および「接触感染」で感染がひろがります。

感染の拡大を防ぐためには感染経路の遮断が大切になります。

特に**接触感染予防の基本となる手洗い**が重要です。

2歳未満の子どもが感染すると重症になります。

2歳未満と2歳以上の子どものクラスは構造的に分離します。お互いの交流も制限します。2歳未満児を担当する職員は、発症した子どもから自分が感染しているという自覚がないまま他の園児に感染させてしまう可能性があるため、**マスクの着用**をしましょう。



— RSV感染症経路は「飛沫感染」と「接触感染」があります。 —

飛沫感染とは？

咳やくしゃみをしたとき鼻や口から大量の水 droplet を放出しますが、この水滴を医学用語で「飛沫」と呼びます。この飛沫のなかには大量の病原菌が含まれていて、床に落ちる前にこの飛沫を吸い込むことによっておこるのが飛沫感染です。小児の呼吸器の感染症のほとんどは飛沫感染により発症します。

接触感染とは？

接触感染の経路には、感染している人の便や唾液などに直接接触する場合と病原菌がついている手指や物品(ドアノブ、おもちゃなど)を介した間接触があります。接触により付着した病原菌が手に付着し、その手で口や鼻を触ることで初めて成立します。

院長のコラム 病児保育の歴史について

日本初の病児保育室は、昭和44年、子育てをする若い夫婦の要望にこたえる形で枚方市の団地内に開設されました。平成3年、国が病児保育の制度設計に着手し、平成7年には病児保育事業は「乳幼児健康支援デイサービス事業」として国の本格的な事業となりました。平成8年、事業名が「乳幼児健康支援一時預かり事業」に変更、その後国の相次ぐ事業拡大の施策により、平成29年3月現在、国の補助金を受給している病児保育施設は1395施設にのぼっています。